東書五

大造じいさんとがん

椋 鳩十

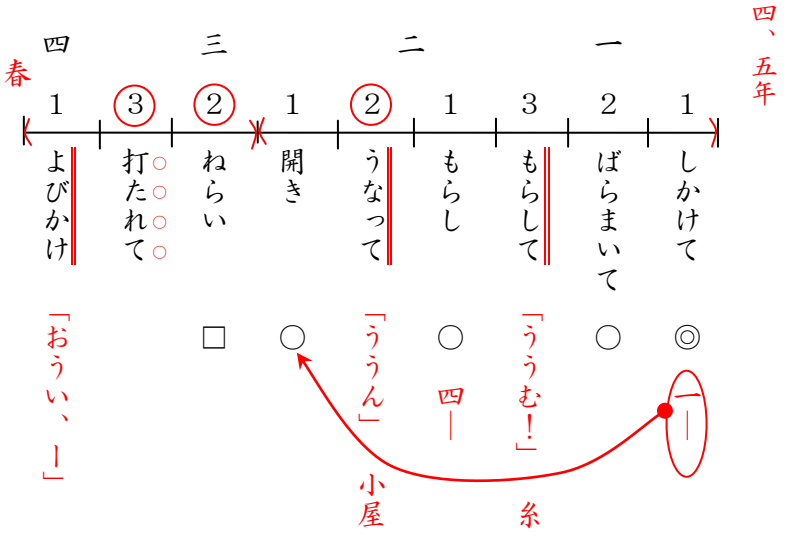
目標
場面の様子や風景の描写を読み取る。
大造じいさんと残雪の生き方を考える。

〈区画〉九区画
一の１ 一行目 今年も　２ 七行目 翌日の
　３ 七行目 その翌日
二の１ 九行目 その翌年　２ 十行目 あかつき
三の１ 二行目 今年も　２ 七行目 と、その
　３ 十行目 大造
四の１ 十行目 残雪は

一 よむ（九名）
二 とく
○ 題目　（りーは猟師と猟銃の意）←
① 大造じいさんの仕事は。（りー　板書）
② 大造じいさんが手に入れた雁は何匹。
　一匹目の絵：糸の両端は。（杭と釣り針）
③ もう一匹には名前が。（残雪　板書）
④ 残雪は雁の何だ。（頭―　板書）
◎ ひびき
⑤ その残雪が来てから獲物零が何年続いていたか。（四―　板書）
⑥ そこで、大造じいさんも工夫を重ねて、残雪も手に入ったが、その残雪をどうした話か。（檻から逃がしてやる）
○ 手引き
・ 大造じいさんが残雪を放すまでの変化を各区画から書き出す。たくさんあるので、それぞれ最後の「大造じいさんは」か「じいさんは」の文を探して、したことか、されたことを表す言葉を視写する。
三 よむ
四 かく（一、二は全員で、その後は個人で）
一 １ しかけて
　２ ばらまいて
　３ もらして
二 １ もらし
　２ うなって
三 １ 開き
　２ ねらい
　３ 打たれて
四 １ よびかけ
五 よむ（一名）
六 とく
○ 事実・区分
① 声が聞こえるのは、どの言葉で、どんな声だったか。（傍線と「　」　板書）
② 「おうい」と呼び掛けた訳が分かる言葉は、どれか。（打―に傍○　板書）
③ 他の声の原因は。（糸　小屋　板書）
④ 声は期待の現れだが、期待の大きさが分かるのは何か。（◎ ○ □ 一↓ 板書）
⑤ 一～四は、工夫を始めてから年数。隼の登場で話が転換するが。（○ 春　板書）
◎ 山
⑥ 詳しく読みたい所三つ（○　板書）
○ 余韻
　大造じいさんも残雪の素敵だなあ。

〈板書事項〉

りー
大造じいさん
と
がん
頭―残雪



第二次指導第一時

一　よむ（一と二　五人）

二　とく

○　おさらい（括弧内　板書）

・一年目の工夫は何か。（一　１　し―）

そこで捕まえた雁をおとりに使ったのは、どこか。（三　１　開―）二年目は、餌撒き作戦、何日続けた。（二　１　四―）悉く作戦は失敗。でも、残雪を手に入れられたのはどうしてか。（三　２　は―）そこで、大造じいさんの気持ちが変わった話。

◎　承接（本時へつなぐ・伏線を敷く）

・一年目の準備（略図）

二年目の夏の準備（五―）

・　作戦前夜の準備（小屋）

○手引き　「その結果の書いてある所」

「しめたぞ！もう少しのしんぼうだ。あの群れに中に一発ぶちこんで、今年こそは目にもの見せてくれるぞ。」

「様子の変わった所に近づかぬがよいぞ。」

かれの本能は、そう感じたらしいのです。ぐっと急角度に方向を変えると、その広いぬま地の、ずっと西側のはしに着陸しました。（一二九字）

六　とく

○　語義・区分

・しめたぞ！　目にもの見せて　近づかぬ

大造じいさんと残雪をそれぞれ二区分

◎　心

・大造じいさんの意気込み

残雪の判断能力と素早さ

○　余韻　えっ、この小屋が……。

第二次指導第二時

一　よむ（二、三、四　六人）

二　とく

○（無念の大造じいさん）

◎（三年目作戦）

○（銃を向けた大造じいさんと戦う残雪）

大造じいさんは、ぐっと、じゅうをかたに当てて、残雪をねらいました。が、何と思ったか、また、じゅうを下ろしてしまいました。

残雪の目には、人間もはやぶさもありませんでした。ただ救わねばならぬ、仲間のすがたがあるだけでした。いきなり、敵にぶつかっていきました。そして、あの大きな羽で、力いっぱい相手をなぐりつけました。（一五六字）

六　とく

○（目には　はやぶさ　いきなり　各二区分）

◎（残雪の姿と大造じいさん

場面の緊張感と表現）

○（我を忘れた大造じいさん）

第二次指導第三時

一　よむ（二、三、四　六人）

二　とく

○（空中戦と大造じいさんの略図　時間）

◎（地上戦の様子と首を持ち上げた残雪）

○（その後の残雪の様子　そして～）

そして、じいさんを正面からにらみつけました。それは、鳥とはいえ、いかにも頭領らしい、堂々たる態度のようでもありました。

大造じいさんが手をのばしても、残雪は、もう、じたばたさわぎませんでした。最期のときを感じて、せめて、頭領としてのいげんをきずつけまいと努力しているようでもありました。（一四二字）

六　とく

○（いえ　いかにも　じたばた　最期　せめて　いげん　まいと）（各段落二区分）

◎（残雪の行動と大造じいさんに見えたこと）

○（残雪も素晴らしいが、そう感じ取った大造じいさんも素敵だなあ）

第三次指導第一時（脚の漢字・語句）

第四次指導　朗読会（略）